

(様式1)

## 令和2年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立中川小学校
校長名	中 嶋 保 徳

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・3年生から5年生まで算数は、どの観点でも全国平均を上回っている。特に、3学年では、「考え方」と「知識・理解」で約15ポイント、5学年では「数学的な考え方」と「技能」で約13ポイントも全国平均を上回った。</li><li>・国語は全学年において、全観点、全国平均を上回った。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・6年の算数は全観点で全国平均を下回っている。理科・社会と共に、活用問題の平均正答率が低い。</li><li>・社会科は、全学年、全観点で全国平均正答率と同程度におさえられている。</li><li>・理科では4年の「観察・実験の技能」、6年の「自然事象への関心・意欲・態度」の観点が、平均正答率を下回っている。</li></ul>

#### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・家庭学習は、全学年、9割程度が毎日行っていると回答している。学習習慣は、概ね身に付いている。</li><li>・生活習慣全体の標準スコアは、どの学年も全国平均値とほぼ同じか、高い。</li><li>・学習環境では、規範意識(学級の規範意識)は、4年と6年以外で、各学年全国の平均値を上回っている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・家庭学習や授業の取り組みなど、学習習慣では固定された児童の値が低くなっており、学習習慣と学ぶ意欲を身につけさせていく必要がある。</li><li>・学年が上がるにつれて、自己肯定感が低いポイントとなっている。自己有用感をもてる場面や、自己の成長を振り返り未来への希望を抱ける取組を、意識して投げかける。</li></ul>

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・児童は概ね、学習には落ち着いて取り組んでいる。学習規律の基本である「中川スタンダード」を徹底させている。</li><li>・授業ではアウトプットを心がけ、課題に対して自分の考えをもち、ノートなどに書くことができる児童が増えた</li><li>・臨時休業中にも時間割を作成し、一定の学習量を担保した。振り返りシートの計画的な仕様により、計算や漢字など基礎・基本の習熟において一定の成果があった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・発表や発言は、積極的な児童と消極的な児童の2極化が見られる。ICT活用などを進める。</li><li>・問題を読み取る力や考えるスキルを身に付け、課題解決に自分から向かっていける意欲を育てる。</li><li>・家庭学習の丸付けや直しができている、漢字が丁寧に書けていない等、提出することだけが目標になっている児童に、振り返りの大切さを理解させる。</li><li>・基礎・基本の力は概ね付いているが、応用的な問題を解く力や、考えたことを発表したり表現したりできる力を付ける必要がある。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 基礎的・基本的な学習内容の定着

- ①基礎学力の向上を目指して本校独自の校内学力調査を年2回（4月は臨時休業のため実施できず。次回は2月を予定している。）実施する。学校独自の調査問題を作成し、基礎・基本の定着に向けた学力調査を実施し、定着度を検証していく。
- ②朝学習の時間（8：20～8：35）に、計算タイム（計算・文章問題プリント）、漢字タイム（漢字プリント）、読書タイムを毎週設定し計画的に実施する。
- ③算数習熟度別指導の充実  
単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態に応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。特に、DE層の児童に対しては、10人以下の少人数のクラスとする。
- ④基礎学力の定着を目的とした放課後補充学習教室「中川きっずワーク」を実施し、DE層の児童の学力向上を図る。

### (2) 思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫

- ①校内学習状況アンケート（意識調査）を年2回（4月は臨時休業のため実施できず。次回は2月を予定している。）実施し、児童の学習への取り組み状況を把握するとともに、それに基づいた授業改善を図っていく。
- ②校内研究を通して、教員の授業力向上を図り、「主体的・対話的な深い学び」に基づく授業改善を図る。研究主題「自分の考えをもち、探求できる児童の育成」を設定し、生活科・理科を中心に全教員が授業研究を行い、教師一人一人の授業力を高め、児童の学力向上を図る。
- ③新しい生活様式に則った形で、できる限り理科の観察・実験を充実させる。観察・実験を通して自然の事物・現象について実感を伴った理解を重視し、知識・理解に関連付けた指導を行い、科学的な思考力・表現力を育成する。
- ④読書月間を11月に実施し、読書の習慣を育て、想像力や語彙力を豊かにする。学校図書館司書を活用し、日常的に本に触れる機会を設け、「読み取る力」を育成する。
- ⑤タブレットPC、電子黒板、デジタル教科書などで動画や資料を授業の導入などで効果的に活用し、学習内容をわかりやすく指導する。GIGA スクール構想に対する校内環境が整備されたら、一人一台のタブレットを活用し、個に応じた学習の推進や、教え合い・学び合いまた、自分の意見を発表するアウトプットの場面を意識的に増やしていく。

### (3) 家庭学習習慣の確立

- ①毎日、一定量の家庭学習課題を出し、学習習慣を確立させる。低・中学年においては保護者にチェックをお願いし、保護者に対しても家庭学習への意識をもたせ、児童と一緒に取り組むことで家庭での学習習慣を定着させる。
- ②授業の学習内容については、宿題として単元の確認問題や「ふりかえりシート」、e-ライブラリ等を繰り返し活用し定着を図る。翌日には必ず内容を確認し、習熟・理解ができていない児童については、個別に指導していく。家庭学習は国語・算数を中心に計画的に行い、中・高学年では、社会・理科を含め実施する。

- ③「早寝、早起き、朝ごはん」を家庭で徹底させることで、家庭での生活習慣を整え学習に向き合う態度を育てる。

### 3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・習熟度別指導や補習等で基礎・基本の定着を図り、国語・算数の各学年のD・E層の割合を今年度より低くする。
- ・算数では、各学年・各観点在全国平均正答率から5ポイント以上上回るようにする。
- ・理科では、「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」の観点が全国平均正答率を上回るようにする。